

2025年9月1日発行

2025年11月1日更新

2026年1月7日更新

2026年度

経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2026 年度 経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目 次

演習のすすめ … 2
 教員によるゼミの紹介 … 3～47

経済学科	頁
犬飼佳吾	3
大石尊之	4
大村真樹子	5
岡本実哲	6
神山恒雄	7
洪潔清	8
神門善久	9
児玉直美	10
小林正人	11
齋藤隆志※2次募集～	12
佐々木百合	13
白井誠人	14
鈴木岳※3次募集～	15
田中淳一	16
田中鉄二	17
中野聰子	18
中村友哉	19
室和伸	20

経営学科	頁
赤松直樹	21
飯田浩司	22
五十嵐千尋	23
稻山健司	24
大竹光寿	25
尾畠裕	26
斎藤嘉一	27
佐藤成紀	28
田原慎介	29
西村三保子	30
浜口幸弘	31
三富悠紀	32
吉田真	33
林麗桂	34

国際経営学科	頁
渥美利弘	35
李惠源	36
井川ジェニファー	37
生方雅人	38
大野弘明	39
岡崎哲二	40
加藤木綿美	41
木川大輔	42
工藤健太	43
小滝秀明	44
マイヤーオーレ	45
松園保則	46
山田純平	47

演習のすすめ

2025年9月1日

経済学部長 藤田晶子

演習は、これまでの大教室での受動的な講義とは異なり、教員の丁寧な指導のもとに、仲間とともに主体的に調査・研究をすすめ、いろいろな視点から一つのテーマをとことん深掘りしていく場です。問題提起から課題解決にいたるまで、社会で必要不可欠な論理的思考をつちかう場でもあります。

演習の魅力は、一言では言い尽くすことができません。

履修者はわずか10人程度の少人数ですので、教員やその研究を身近な存在として感じることができると共に、貴重な機会です。国内外で生起する経済問題を議論し、とき人生について語り合える仲間は、一生の宝物（たからもの）ともいえるでしょう。調査・研究・プレゼンはもとより、飲み会や合宿、OBOGとの交流会、他大学のゼミとのディベートなど、まさに「これぞ大学！！」が演習です。

ゼミナールガイドブックを読んで、各教員の演習内容をしっかりと把握したうえで、自分が研究したいことを考え、どの演習に応募するかを選んでいただきたいと思います。

みなさんの大学生活をより充実したものにするために、ぜひ、演習を経験してみてください。

犬飼 佳吾 ゼミナール

演習のテーマ

行動経済学、実験経済学、ニューロエコノミクス

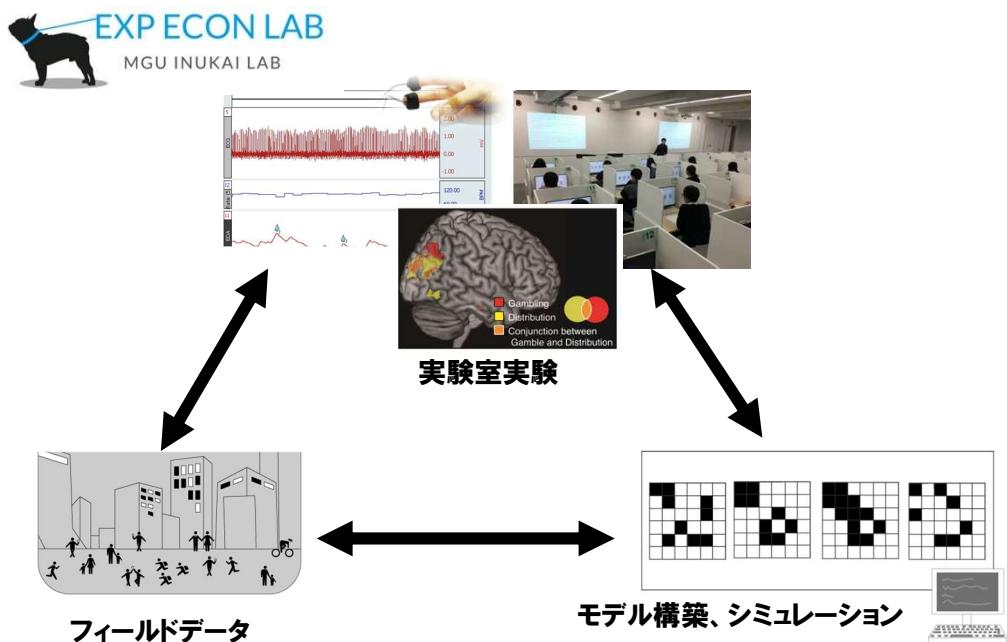
演習の内容

このゼミでは、実験という手法によって、私たちの意思決定や行動原理、経済の仕組みを理解することを目的としています。ゼミの学生は、実験研究に関する背景知識の学習を進めたうえで、教員と相談しながら実験研究のプロジェクトを進めます。研究を進めていくなかで、経済学の考え方や理論を学ぶだけではなく、実際の私たち自身の行動の仕組みについて理解し、より良い意思決定や社会の仕組みを考えていきたいと思います。

ゼミで扱う研究範囲は多岐にわたります。たとえば、私たちの意思決定のクセや特徴を調べたり（行動経済学）、経済や社会の仕組みを実験によって検討したり（実験経済学）、経済学的な意思決定や判断をしているときに脳や体の中でどんなことが起こっているかを研究（ニューロ・エコノミクス）します。これらの課題について教員やゼミ生と議論しながら、卒業論文にむけて研究を進めていきます。

また、このゼミは従来のゼミの枠組みを超えて、実験経済学研究室という単位のもと、国内外の研究者と連携しながら先端研究を推進しています。

生物として「ヒト」と経済学や社会科学が対象とする「人」との間をつなぐ研究に興味をもち、強い情熱や好奇心のある方を募集します。



大石 尊之 ゼミナール

演習のテーマ

法と経済学（競争法の経済学）

学生の皆さんには「法律」と聞くと、六法（憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法）などを思い浮かべるかもしれません。しかし、私たちの日常生活や企業活動を円滑に営むうえで法律が不可欠である、という認識は共通していることでしょう。

1960年代以降、主にアメリカで発展してきた「法と経済学」は、各国の主要な法領域を分析対象としており、これまで所有権や財産権、不法行為、契約法、刑法、競争法・知的財産法、さらには国際法まで幅広く研究が行われてきました。

私自身は、市場理論・ゲーム理論・グラフ理論といったミクロ経済学やネットワークに関する数理分析の手法を用いて、因果関係が複雑に絡み合う不法行為法の問題についての公理的分析や、デジタル所有権の形態が市場と法制度の双方を通じてどのように内生的に決定されるのかを経済理論に基づいて研究しています。近年は研究代表者として、「ブロックチェーンの法と経済学：スマートコントラクトの財産権分析」（2024年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)）や「ブロックチェーンと所有権の経済分析」（2023年度明治学院大学産業経済研究所プロジェクト）などの研究を立ち上げ、学内外の経済学者・法学者とともに研究プラットフォームを構築し、デジタル時代に対応する新しい法制度設計の理論構築を進めています。

私は「法と経済学」を、法制度や法律の社会的パフォーマンスを評価し、また規範や慣習を含む法的ルールが市場や組織とどのように関わるのかを明らかにするための経済学と位置づけています。こうした視点から、これまで3年ゼミでは、規範や慣習のメカニズムを、ゲーム理論を通じて議論するために、海外の法と経済学者によるテキストを輪読してきました。また、「ブロックチェーンと法」に関する海外の法学者による文献も扱い、デジタル技術と法制度の関係について理解を深めてきました。

4年ゼミでは卒業論文執筆に向けて、各自が関心を持つ「法と経済学」関連テーマに基づいて研究を進め、論文指導を行っています。ゼミ生は、私が担当する「法と経済学1・2」を必修として履修し、その過程で基礎的な考え方を身につけます。

2026年度は、ゼミ開講当初に取り上げた村上政博著『独占禁止法 新版—国際標準の競争法へ』を再び題材とします。日本の独占禁止法が禁じる「公正な競争を阻害する行為」とは何か、またデジタル・プラットフォーム事業者による独占禁止法違反事例からどのような競争政策的な含意が導かれるのかを、法と経済学の観点から詳細に検討していきます。

（なお、2026年度はBゼミとして開講予定です。）

大村 真樹子 ゼミナール

演習のテーマ

Health Economics （健康・医療経済学）

演習の内容

大村ゼミナールで健康・医療経済学の奥深さを探求

大村ゼミナールでは、公衆衛生と福祉の視点から、複雑な社会経済問題を扱う健康・医療経済学について学びます。健康・医療は私達の幸福・厚生にとり重要な要素です。その社会的仕組みや、関連する私達の行動を理解することは、私たちの厚生の改善も重要です。

学びの内容:

- **医療制度の経済分析:** 医療システムの社会的コストと利益のバランスは？健康保険制度の多様性と情報の非対称性から生じる問題はどのようなものか？
- **健康財の価値と特殊性 :** 健康が他の財とどのように異なるのか？また、健康を重視する人々とそうでない人々の違いは何か？健康投資とは？
- **健康における行動経済学:** 健康への悪影響が明らかであるにも関わらず、なぜ人々が喫煙を続けるのか？ファストフード摂取減等の予防行動の経済的意味合いとは？
- **加齢と健康:** 加齢と健康の関係とは？健康資本は時間とともにどのように価値を減じるのか、そしてそれが個人の健康決定にどのように影響するのか？

ゼミナールの進め方:

- **アクティブなディスカッションとプレゼンテーション:** 3 年次では、Bhattacharya, Hyde, Tu 著『Health Economics』（邦訳未発行の英語教科書）の担当箇所を、ゼミ同士協力して準備・発表し、そして討論に積極的に参加することが求められます。3 年次の後半から、4 年次で本格的に取り組む卒業論文の準備に取り組み始めます。
- **ゼミ合宿 :** 通常夏季休暇中に 2 泊 3 日のゼミ合宿を実施し、ゼミ生同士の親睦を深めます。

重要スキルの育成:

- **複雑なアイデアの表現:** 様々な経済分析手法を学び、かつこれらを分かりやすく、正しくかつ効果的に表現する一論文を書く・発表をする一力を身につけます。
- **知的好奇心と視野の拡大:** 多様な「健康・医療」問題に対する造詣を深め、これらを批判的かつ経済的に考察することで知的好奇心を養います。
- **英文献読解 :** 報告等により、英語の経済学文献の読解力がついてきます。
- **適切な引用方法を学ぶ :** 論文検索・文献引用・文献ソフトの利用等も学びます。
- **計量ソフト利用 :** 本ゼミナールでは、統計学の基礎があることを前提に STATA の利用方法を最低限カバーします（4 年春学期）。

岡本 実哲 ゼミナール

演習のテーマ

ミクロ経済学・ゲーム理論の応用—オークション、マッチング、社会的選択理論

演習の内容

このゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計などのテーマを中心に学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション（競争入札）は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのが分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんのが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計などゲーム理論の応用分野、行動経済学、SDGs の経済学、ブロックチェーン、AI などの関連分野も扱います。ゼミでは経済学を学ぶことも当然ですが、経済学を学ぶことを通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミでは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらいます。受け身ではなく主体的な取り組みが必須です。

2026 年度の本ゼミナールに関しては、B ゼミでの募集になりますのでご注意ください。

神山 恒雄 ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

欧米の圧力で幕末に自由貿易が始まると、それまで鎖国により海外から遮断されていた日本は、強大な欧米資本主義国からの外圧に対抗して、独立を維持しながら資本主義化を達成して列強の仲間入りをしました。しかし、他の列強との競争のなかで日本の経済勢力圏を拡大するために対外侵略を進めた結果、第二次世界大戦により日本経済は崩壊したのです。

こうした近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで3年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

4年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めますが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問はE-mailを利用して下さい。オンラインでの面談の必要があれば日時を相談します。(アドレスはkamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp)

洪 潔清 ゼミナール

演習のテーマ

経済成長に伴う中国の経済・社会・文化事象の変化を考える

演習の内容

この演習では、2000 年以降中国経済の急成長に伴う中国の経済、社会、文化的変遷、そしてこれらの変化が人々の意識にどのような影響を与えてきたかを考える。

2000 年以後に生まれた多くの大学生は、過去 20 年間で中国が経験した改革について十分に知らないかもしれない。2000 年にまだ世界で 6 位であった中国の GDP が 10 年後日本を追い越して 2 位となり、その後も世界 1 位であるアメリカとの差がさらに縮まった。これほど大きな変化が起きた隣国の中に対し、一部の学生はまだ曖昧な印象しか持っていないようだ。そこで、この演習では、まず『チャイナテック 中国デジタル革命の衝撃』（東洋経済新報社）を参考文献として読み、最新の中国事情を理解し、中国に対する知識を深めます。次は以下のテーマ（参加者のニーズに応じて調整可能）を中心に詳しく検討する。

- 1) 中国のデジタル革命の実像 - ABCD 5G
- 2) キャッシュレス決済普及の光と影
- 3) 国民的な SNS アプリ「Wechat」の影響力
- 4) インフラ整備による高速鉄道や地下鉄の建設ブーム
- 5) SNS 型 EC の拡大実態
- 6) 中国のゴミ分別の現状

進み方として演習 A1 と A2 では、上記のテーマに基づいて文献を読み、関連資料を収集し、グループ内でのディスカッションや授業でのプレゼンテーションを行う。状況に応じて、オンラインで中国の大学生との共同ディスカッションを行うことも検討する。学期末に各自が発表した内容を整理し、レポートとして提出する。3 年次の秋学期のレポートは 4 年次の卒業論文のテーマに結びつけ、日中の比較の視点から考察してほしい。4 年次の演習 A3 と A4 では、主に卒業論文のテーマの確定と執筆指導を行う。

なお、中国圏の経済や社会に関する知識の中に中国語の専門用語が出てくることが考えられるため、中国語を履修した学生または中国に関心を持つ学生の参加が望ましい。

神門 善久 ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎

演習の内容

参加者の希望に応じて弾力的に内容を決める。経済学を超えて一般的な論述における基礎を重視する。

児玉 直美 ゼミナール

演習のテーマ

政策評価

演習の内容

情報技術の発展によって、大量のデータ（ビッグデータ）が入手できるようになってきました。「政策評価」は、国や地方自治体の「政策」をデータを使って評価するだけではありません。政策評価の方法を習得すれば、「どんな広告戦略を採用すると売上が上がるのか？」「社員の仕事の効率を上げるためにどんな方法が良いか？」「補助金にはどの程度の効果があったか？」「教育現場で、どの教材が効果があったか？」という問題にも答えることができます。近年、インターネット関連のハイテク企業だけでなく、多くの企業で、ポイントカードデータ、POS、スマホのメッセージやSNSを利用したダイレクト、リアルタイムに行う広告や販促が一般化しています。「政策評価」は、単にビッグデータが使えればできるわけではありません。機械学習などの手法で、巨大なデータを事後的に分析するだけでは、なぜそのようになったかというメカニズムの部分はブラックボックスになってしまいます。理論や先行研究を踏まえた仮説を組み立て、因果関係を明らかにする方法を習得しませんか？

このゼミの目的は、**計量経済学を使って、様々なデータから自分のオリジナルな発見をすること**です。公務員やコンサルを目指す人だけでなく、民間企業でマーケティングや新企画を立ち上げる時に、政策評価の知識とスキルは役に立ちます。データを駆使して自分で考える能力を養ってみませんか？この能力を活かし、各自、興味のある社会のメカニズムについて研究を行います。経済学の考え方を基本としますが、法律、経営、マーケティング、福祉、環境、スポーツ、趣味など、様々な視点を絡めて柔軟に考え、議論してください。

最初は座学での学習と実際のデータ分析を通じて分析感覚を養います。本格的な研究はグループワークで行い、統計分析ソフトの習得も含めて、約半年じっくり行います。研究成果はプレゼンテーション訓練を徹底的に行った上で、学内（ゼミ内、他ゼミ）、学外（他大学との合同ゼミ）で発表します。発表前には、グループで、ゼミ以外の時間に集まって準備することもあります。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿、他大学との発表会や合宿、懇親会、スポーツ大会なども行う予定です。ゼミ運営は「一人一役」で業務を分担します。ゼミの時間以外での活動も多いので、卒業後も付き合っていかれるような仲間に出会えることは間違ひありません。ゼミ活動、課外活動に積極的に関わる学生の参加を期待しています。

小林 正人 ゼミナール

演習のテーマ

Python と pandas によるデータ分析

演習の内容

コンピュータ言語 Python と、その上で動くライブラリ pandas を学び、データ分析に応用します。

3 年次は、Python や pandas の基本文法を学んだ後、manaba 上の演習サイトで基礎的なスキルを練習します。

4 年次は、卒論執筆を目標に、OECD の「生徒の学習到達度調査（PISA）」や東京大学社会科学研究所の「親子パネル調査」など、数千件規模の調査データを実際に分析します。過去の卒論テーマには、「低所得層・地方出身者の進路選択」、「PISA2015 データを用いたじめ要因の分析」、「婚活の効果」、「幸せな結婚と不幸な結婚」などがあります。

プログラミング未経験者も歓迎しますが、統計学を履修済みであることを望みます。

Python は社会調査やマーケット調査など大規模データ処理に適しており、文系で使える人材はまだ少ないため、習得するメリットは大きいと考えます。

インターゼミや合宿、ゼミ後の飲み会は行いません。

齋藤 隆志 ゼミナール

演習のテーマ

労働経済学の実証分析

演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。3~4人のグループを作り、労働経済学のテーマで興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。

そこで、ゼミの応募書類や面接では、みなさんがどのようなテーマで研究をしたいかについて、質問をします。分析手法など専門的なことはわからなくて当然なので、労働経済学にはどういうテーマがあるのか、その中で自分が何に興味を持っているのかを言えるようになっていてください。ただし、ゼミに入ってからでもテーマを変更できますし、グループで研究をするので、面接で話したことが100%実現できるとは限りません。

皆さんには、今のうちに労働経済学にはどのような研究テーマがあるのかを、日本経済新聞の「経済教室」や日本労働研究雑誌の「学界展望」、また授業で紹介される本などを読むことで知ってもらいたいと思います。みなさんと同じ大学生が研究報告をしている「日本政策学生会議（ISFJ）」のウェブサイトも、とても参考になります。

ゼミに入ってからの大まかなスケジュールは次の通りです。まず3年生の春学期にグループの研究テーマを決め、その後関連文献（研究書、論文）を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ります。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。つまり、毎週のゼミの時間はインプットの時間というより、アウトプットの時間になります。インプットは労働経済学や人事経済学、さらに計量経済学や政策評価の経済学を中心とした講義、さらに研究に必要な知識やスキルの自学自習によって行います。

十分なインプットと少しの勇気があれば、自分のグループの研究レベルを高めるだけでなく、他のグループの報告に鋭い質問や有益な提案をすることができ、研究の質を高めることに大きく貢献できます。普段のゼミ活動で鍛えていれば自信が付き、発言内容も単なる感覚や狭い経験だけではなく客観的・学術的な根拠に基づいたものとなり、合同ゼミでも積極的に他大学の報告者と議論できるようになるはずです。

勉強以外の活動として、ゼミ生には野球観戦、博物館等の見学、そして夏合宿といったイベントを企画してもらいます。ゼミとしての活動が非常に多いので、一人一つ係を担当して得意分野で貢献することになります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ですが、学生生活が充実することは間違ひありません。

佐々木 百合 ゼミナール

演習のテーマ

金融・国際金融

演習の内容

佐々木ゼミでは、金融、国際金融に関連するトピックスを取り上げて研究する。具体的には、まず広く浅く金融・国際金融の知識をつけるためにテキストを輪読して研究上必要な基礎的な内容について学習する。次に、トピックを決めてそれについてグループで研究をすすめ、ゼミ内や他大学のゼミとディベートをすることで理解を深める。その後ゼミ内で研究発表を行う。また、月に数回コンピュータを利用して、テーマに関連したデータを集めて統計的に分析したり、研究成果をプレゼンテーションしたりする。その他、ゼミでは株式運用レース、投信レースに参加したり、見学・合宿・コンパなどの課外活動も行う。

参考として、ゼミで扱うトピックや、卒論に取り上げる題材は、例えば「日本の金融政策の検証」「為替相場の貿易収支への影響」「フィンテックの影響と今後の展望」などである。

ゼミは学生中心に進めるので、しっかり学びたいという気持ちを持ち、積極性のある学生を希望する。

白井 誠人 ゼミナール

演習のテーマ

日本経済論(特に就職先企業の経済分析)

演習の内容

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

3年生： 近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。

応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

同時に春学期と夏休みのサブゼミで就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期に経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

4年生： 自分の就職先企業や仕事内容をより深く考察するために、3年次で養った基礎知識を下地にして企業研究についての代表的文献を要約してもらい、分析視点や手法の土台を構築します。その土台を立脚点として、卒業後、実際に就業して所得を得ることになるビジネスの収益メカニズムや企業組織の構造、業界での位置付け等を考察、将来の予測分析を試みます。

鈴木 岳 ゼミナール

演習のテーマ

政治哲学・公共哲学

演習の内容

現代の民主的な社会の市民にとって、どのような政策・制度が正当であり、市民はいかなる自由と権利を持ち、いかに行動するべきであるかといった事柄に対して判断を下すことは、各人に課せられた責任である。責任ある判断とは、もちろん単なる伝聞や「世間の常識」ではなく、自身による理性的根拠を伴う判断を意味する。残念ながら、経済学の知識だけではこうした事柄を判断するために十分な理性的根拠を得ることはできない。またそもそも、こうした事柄の全てを教えてくれる一つの学問などは存在しない。これらは政治哲学に属する問題であるが、「哲学」とは出来上がった学説・理論を教示する学問ではなく、ただ同じ哲学的関心を持つ仲間との議論を通じて少しでも理解を深めていこうとする一種の実践である。

そこでこのゼミでは、M. サンデル著『これからの正義の話をしよう』の輪読を通じて政治・公共哲学の諸問題を議論する。ゼミ生は担当として割り当てられた箇所を数ページのレジュメにまとめてゼミの初めに発表し、その後で各人は質問や意見を述べて、議論を行う。こうして始まった議論が首尾一貫したものとなるか、何らかのまとめた結論を得るにいたるかどうかは、全く分からぬ（大抵はそうはならない）。つまり哲学においては、何らかの「成果」と呼ばれ得る結論を生み出すことは一般には極めて難しい。しかし自分とは異なる意見に耳を傾け、考えを述べ合い、説得に努め、相手の考えに納得した場合にはそれを受け入れる、といった過程（それが議論である）を通じて自分自身の意見・考えを深めることができたならば、それは一応の成功と言うべきである（実はこれすらもまた大変に難しいのであるが）。

従って、こうした議論に加わらずにただ他のゼミ生のやり取りを聞いているだけでは、収穫は少ないだろう。教科書について自分の担当箇所でないところも予め読んでおき、積極的に議論に参加することが望ましい。またこのゼミの目的はあくまで上に述べた諸問題についての各人の考えを深めることであって、サンデル教授の著書に対する理解度を試すことではない（もちろんゼミは教科書に対する十分な理解を前提として進めるが）から、教科書のみならず、日ごろからニュースや各種報道に注意を払い、現代社会（かならずしも日本に限らない）で生じている諸問題に関心を持つこともまた大切である。

田中 淳一 ゼミナール

演習のテーマ

歴史的にみるヨーロッパ社会経済の展開

演習の内容

このゼミでは、近現代を中心としたヨーロッパ諸地域の社会経済の展開について、地域史やグローバルな観点も含めた歴史的視野から検討していきます。

ヨーロッパはもともとユーラシア大陸の辺境にありながら、ギリシャ・ローマの哲学や技術、キリスト教の信仰・文化などを背景にしつつ、大航海時代、工業化などを経て近代に至ると、一地域を超えるグローバルな世界システムの中核を占める勢力として台頭しました。最近こそアメリカやロシア、そして日本、中国、その他のアジア地域も台頭し、その政治的・経済的な影響力の大きさは以前ほど意識されなくなりましたが、ヨーロッパもEU(欧州連合)を形成するなどして、今でも一定の地位を保っています。

それだけではありません。近現代に発展した思想・技術・学問の源は多くヨーロッパにあり、現在でも近代ヨーロッパの作り出した価値規範は世界の経済、文化、社会の在り方に大きな影響を与えています。そのように考えたとき、ヨーロッパの社会経済の歴史を学ぶことは現在の我々の価値観の根本を問い合わせていくことにもつながるはずです。

このゼミでは以上のような問題認識を背景に、現代に至るヨーロッパの社会経済の歴史的展開を学びます。さらにそのうえで個々の関心のあるテーマを設定して分析や考察に取り組み、その成果を卒業論文の形にまとめることを目標とします。具体的には以下のような形で授業を進行する予定です。

3年次は、ヨーロッパの経済史や地域史、グローバルヒストリーなどについていくつかの基礎文献を受講者全員で講読していきます。講読する文献は受講者の関心や要望も考慮して決定し、受講者は文献のレジュメ作成やプレゼンテーションを通じて、ヨーロッパの社会経済の歴史に関する基礎知識を固めつつ、卒業論文のテーマを決定していくことになります。論文のテーマについては、ヨーロッパに関係するものであれば時代や範囲はある程度自由に設定することができます。

4年次は、前年に決定したテーマに従って具体的に卒業論文を執筆することが目標となります。授業については毎回各自の卒業論文の研究の進展について報告してもらい、それについて議論していきます。

ゼミの授業は学生も主体的に参加して共に作り上げていくものです。歴史と調べることが好きで意欲ある方の参加を期待しています。

田中 鉄二 ゼミナール

演習のテーマ

食料・環境・エネルギーの経済学

演習の内容

経済を通じて、地球規模の課題に挑む

本ゼミでは、現代社会が直面する「食料・環境・エネルギー」問題を、経済学の視点から多角的に分析し、持続可能な社会のあり方を考えます。地球規模で進行する気候変動や食料安全保障、資源の枯渇といった課題に対し、実証データと理論に基づいたアプローチを重視しています。

活動内容

3年生では、英語で書かれた最新の経済学論文を輪読し、英語でのプレゼンテーションに挑戦します。論文の内容を正確に理解し、背景にある経済理論や実証手法を解説する力を養います。プレゼンはすべて英語で行うため、国際的な情報発信力の強化にもつながります。

また、Excelを用いた簡単な統計分析も行い、データを「読み」「示す」力を身につけます。初歩的な回帰分析やグラフ作成を通じて、経済データの扱い方に慣れていきます。

4年生になると、各自が関心のあるテーマで卒業論文に取り組みます。3年生の段階からテーマ選定と分析の準備を進め、中間発表を通じてフィードバックを受けながら論文を完成させていきます。

キャリア形成支援

将来の就職活動を見据え、企業分析の基礎として「決算書の読み方」「四季報の活用方法」なども学びます。経済学の知識を社会で実践的に生かす力を養うこと、本ゼミの大切な柱の一つです。

このゼミに向いている人

- グローバルな視点で社会課題に取り組みたい人
- データを用いた分析に興味がある人
- 英語での情報発信力やプレゼン力を伸ばしたい人
- 自分なりの問い合わせを持ち、それに答えようとする意欲のある人

経済学の知識を実社会の問題に応用し、「考える力」「伝える力」「調べる力」を育てる場として、意欲ある皆さんの参加をお待ちしています。

中野 聰子 ゼミナール

演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学の思想背景

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとします。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定しています。

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。

2026年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、20世紀初頭の現代経済学の形成を、J.M.ケインズ、F.Y.エッジワース、A.マーシャルなどを中心に、経済思想、経済理論史を検討します。

ゼミでディスカッションやプレゼンテーションを実践したい。経済学の本や論文をきちんと読んで、経済学の考え方を吸収したい。文献を検索して、体系的に整理する方法を習得したい。ゼミの仲間と交流し、大学での人とのつながりを大事にしたい。以上のことを行いたい。ゼミの参加を希望します。

中村 友哉 ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学1、2」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「かけひきを合理的に分析する力」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学1、2」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

室 和伸 ゼミナール

演習のテーマ

マクロ経済学

演習の内容

マクロ経済学は、国内総生産（GDP）、物価、失業率の動向を把握し、一国経済全体を定性的・定量的に分析する。経済の仕組みや法則性がわかれれば、経済予測や資産運用などにおいて、私達が生活していく上で役に立つ。さらに資本主義経済を深く理解することにつながる。

マクロ経済学の重要分野である経済成長について考察し、経済発展の謎を解き明かそう。長い歴史を振り返ると、経済成長とは 1880 年頃から 1973 年までの約 100 年間で起こった特別な現象だったのだろうか？それとも今後も持続的な成長が可能なのだろうか？ 豊かな暮らしをしている国と、貧しいままの生活をしている国があるのはなぜか？ 経済成長のために不可欠な要因は何かについて考えてみよう。

所得格差の問題も重要である。オートメーションや AI 技術は、労働分配率を低下させるのだろうか。労働分配率の低下や賃金格差の上昇といった現象をどのように説明できるだろうか。近年、物価の継続的な上昇（インフレ）が進行しつつある。インフレの時代と呼ばれた 1970 年代の経済と現代の経済を比較して、共通点と相違点を見つけよう。マクロ経済現象が起こった背後にあるメカニズムを考察することが重要である。

ゼミではマクロ経済学に関する文献を輪読する。あらかじめ該当箇所を割り当てておき、学生がプレゼンテーションをする。課外活動やゼミ合宿にも積極的に参加すること。ゼミはともに学び合いの場であり、教育を通じた人間形成の場としたい。

赤松 直樹 ゼミナール

演習のテーマ

消費者行動とマーケティング

演習の内容

このゼミナールでは、「消費者の視点に立ちマーケティングについて分析すること」を基本的なスタンスとしています。研究論文や学術書の読み込み必須ですが、仮説構築や仮説検証のために利用するデータの種類は問いません（定量データ、定性データなど）。

基本的には、グループワークが中心です。最初は、既存データや共通の課題に関して各グループで研究を進めてもらいますが、その後は、研究テーマや課題設定、データ収集・分析など一から研究をはじめて、その成果を報告してもらいます。これには、ある程度の時間と議論を要するため、ゼミナールの時間外でもグループワーク等を自主的に行うことが求められる場合があります。また、他大学のマーケティングゼミとの勉強・研究会、討論会などに参加することも検討していますが、この点は、学生の皆さんと話し合いながら決めていきたいと考えています。

ゼミナールを通じて勉強・研究に打ち込むことで、物事の考え方・議論の仕方などを少しでも深めていきたい、大学卒業後も長期にわたって付き合っていく友達を作りたい等、大学生活をより一層充実させたいと考えている学生をお待ちしています。

飯田 浩司 ゼミナール

演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

演習の内容

— コンテンツビジネスを多角的に学ぶゼミ —

私たちの身の回りには、本・新聞・音楽・映画・アニメ・ゲーム・テレビ・広告など、多種多様な“コンテンツ”があふれています。一見「鑑賞するもの」として親しまれているこれらの作品も、実は複雑でダイナミックなビジネスによって成り立っています。さらに、そのビジネスはさまざまな法律と密接に関係しています。このゼミでは、こうした「コンテンツビジネス」の仕組みや課題について、ビジネス面と法律面の両面から多角的に学びます。特に、音楽産業や映像産業など、私たちにとって身近なエンターテインメント業界を題材に、リアルな事例に基づいた実践的な学びを重視しています。

❶ こんなことを学びます！

- 3年 春学期：まずは“著作権ってなに？”という基礎から。実際の事例や判例を交えながら、コンテンツビジネスに欠かせない法的知識を身につけます。
- 3年 秋学期：音楽・映画・ゲーム・放送など、各業界のビジネスモデルや課題をリサーチ。グループや個人で発表し合い、理解を深めていきます。
- 4年：自分が選んだテーマで、卒業論文を作成！好きな分野をとことん掘り下げましょう。

❷ ゼミの特色

- ・レコーディングスタジオ、テレビ局、新聞社など、本物の現場に足を運びます
- ・コンテンツ業界で活躍するプロを招き、直接話を聞くことができます
- ・学問的な探究だけでなく、ゼミ合宿や懇親会などのイベントなど、仲間とのコミュニケーションも大切にしています

❸ こんな人にぴったり！

- ・音楽や映像など、コンテンツに興味がある
- ・コンテンツの「つくり手」だけでなく「支える仕組み」に関心がある
- ・法律や社会のルールについて、身近なテーマから考えてみたい
- ・好きなことを“学び”に変えて、自分なりの視点を育てたい

五十嵐 千尋 ゼミナール

演習のテーマ

日本経営史・日本経済史・産業史

演習の内容

このゼミでは、日本経営史上における様々な企業のケーススタディを学んでいきます。そのなかで、企業の成長に関する基礎的な知識や、論理的な思考を習得することを目指します。そして自らの学びや思考をまとめて文章化し、他者と共有することが出来る能力を身につけること、自ら情報を集めて思考し、議論することを目的としています。

3年次の演習A1では、テキストをもとにいくつかの日本企業のケーススタディを学びながら、文章でレジュメを作成し、報告、ディスカッションをします。我々は常日頃、メールなどで文章を作成していますが、学術的な文章はなかなかすぐには書けるようになりません。インプットとアウトプットに慣れていくましょう。また様々なジャンルの企業の歴史に触れながら、自分は何に関心があるのか、視野を広げていきましょう。

続く演習A2では卒業論文の執筆に向けて自らテーマを設定し、テーマに関する先行研究を整理し、自身の卒業論文がもつ学術的、社会的意義を検討し、位置づけていきます。合わせて卒業論文執筆に必要な資料やデータの収集も進めていきましょう。

4年次の演習A3・A4では、各自が興味を持った事象について卒業論文のテーマとして定め、3年次の経験を生かして自らの問題意識から課題を設定、実証を行い、卒業論文を執筆します。主に個人で作業を進めていくことになりますが、定期的にゼミで作業の進捗を報告し、全体での中間報告も行います。演習A4では卒業論文の完成を目指します。

企業博物館や工場見学、国会図書館への訪問といった課外活動を考えています。参加は任意です。ゼミ生から訪問先に希望があればそれに沿う形で行いたいと思います。

稻山 健司 ゼミナール

演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読みます。文献の検討を通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。
- 事例研究を行います。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。食品、飲料、化粧品、家電製品、コンビニエンスストア、飲食店、テーマパークなどに関する事例を扱いました。

大竹 光寿 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、消費文化、ブランド・マネジメント

演習の内容

本ゼミナールの狙いは、ユニークな研究を行うことを通じて、学問を深めるだけでなく、社会に何らかの貢献をし、得たものを卒業後の活動に繋げることにあります。取り上げる題材は、企業経営として「マーケティング」、経営環境として「消費者行動」や「消費文化」、そしてそれら2つを結びつける「ブランド」です。文化という視点からマーケティングと消費との関係を検討し、大企業のみならず、スタートアップ企業にも着目して、ブランド・マネジメントについて理解を深めていきます。

ゼミナールでは、個人研究とグループ研究を並行して行います。個人研究については、卒業論文として、自分にとって切実な問い合わせを設定し、自分なりの答えを出す作業を行います。そのために、関連するテーマの研究論文や学術書、研究方法に関する文献を読みその内容をゼミ生らと共有・議論したり、フォールド調査に出かけたりします。また、研究成果をゼミで随時発表して、ゼミ OBOG を含む実務家からもフィードバックをもらい、研究を深めます。グループ研究に関しては、関心が近いゼミ生とチームを組んで、現場でブランディングに携わる方々と接しながら、社会に対して何らかの貢献ができるようなプロジェクトを企画・実行してもらいます（下記参照）。

こうした個人研究とグループ研究を通じて、実務の現場との接点を学生なりに見つけて、学問と実践を行います。合宿や大学外での活動などについて学生の意見を取り入れながら、良き学びと出会いの場となるよう、ゼミナールを作り上げていきます。なお、指導教員は2025年度サバティカルで授業を担当していないため、26年度ゼミに4年生はありません。課外活動やOBOG会の運営にも積極的に携わる学生の参加を期待しています。
※グループ研究のテーマ（一例）：各チーム（3名ほど）で秀逸なブランドを探して、ブランドブック（創業者、社長、職人、マーケター、取引先、顧客、ジャーナリストなど、そのブランドに関わる方々を実際に取材し、写真や文章などでブランドの本質をまとめた本）を作成する。そして、取材内容や共同プロジェクトの結果を社会に発信する。つまり、単に取材するだけでなく、自らコンテンツのマーケティングも行うことになる。取材を通じて実務家から学んでいるのでそれが活かせる。実務家や学者の本もそれに合わせて読み込む。協力先企業へのアポ取り、本社での企画提案のプレゼンも含めて学生主体で行う。学生の取り組み自体がメディアから取材を受け、取り上げられることもある。

・主な企業とブランド：アサヒ（玄米ブラン、カルピス）、クリックパッド、SALASUSU、資生堂、D&DEPARTMENT、富士フイルム、堀口切子、ミリメーター、森ビル、森美術館、大丸東京、カルビー（じゃがりこ）、ファミリーマート、ロッテ、など。

尾畠 裕 ゼミナール

演習のテーマ

原価計算、管理会計、(+Python)

演習の内容

本ゼミでは、原価計算と管理会計をテーマとしますが、ゼミの活動の大部分は Python を使ったプログラミングとなります。尾畠ゼミは、システムと会計の両方に強い人材の輩出を目指しています。こういった人材は、非常に社会に求められていますが、稀少です。みなさんは、原価計算と聞いて、資格試験や検定試験の試験科目を連想されるかもしれません。常に電卓をたたいているイメージがあるかもしれません。しかし、実務で行われている原価計算は、実に多様で、創意工夫が要求されます。決まったパターンを適用するだけでは終わりません。より本質的な理解とシステム構成力が求められます。

3年次の春学期は Python を使ってオブジェクト指向の考え方で原価計算を学んでいきます。すなわち原価計算を構成する様々な概念をクラス（型）として定義して、それを組み合わせて計算のロジックを組み立てていく演習を行います。それにより本質的理解と応用力を身につけます。電卓片手に計算を行う原価計算のイメージとはずいぶんと違います。なお、いきなり原価計算のプログラミングはハードルが高いので、オブジェクト指向プログラミングへの導入として簡単なゲームを作成して対戦してもらっています。

プログラミングのスキルを身につけるのは、最初の頃は退屈であるため、この段階で躊躇してしまうこともあります。この最初の退屈な時期を乗り越えるために、このゼミでは生成 AI の利用を推奨しています。それを通じて生成 AI をうまく使って、質の高いプログラムを生み出していく能力を身につけてもらいます。今では多くの世の中のプログラムが生成 AI を活用して作られており、生成 AI の活用の仕方次第で、プログラムの完成度は大きな違いが出てきますので、生成 AI を活用したプログラミングは社会的に求められている技能です。もちろん現時点で、プログラミングは、はじめてというひとでも心配はありません。3年次の秋学期からは、Python を活用して、経営組織のなかでおこる現象をエージェント・ベース・モデル（ABM）のシミュレーションで再現する実験を行います。管理会計の問題を、シミュレーションを使って解明していく研究は、まだまだ新しい研究分野ですが、非常におもしろい領域です。みなさんにもシミュレーションで組織現象や管理会計問題を分析する楽しみを味わっていただきたいと思います。

4年次には、卒業論文に向けて個別テーマでの報告をしていただきます。3年次でせっかく Python を習得するので、Python を活かした研究テーマを推奨します。それにより非常にオリジナリティのある管理会計研究に取り組むことができると思います。

なお、夏休み中に夏合宿を行なっております。

齊藤 嘉一 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティングと消費者行動

演習の内容

なぜたくさんの人が繰り返し東京ディズニーランドに訪れるのだろう？しかも、おそろいのコーデで！なぜ“インスタグラマー”の持ち物が流行るのだろう？このゼミは、私たちの身近に起こっているマーケティング現象に「なぜ？」という問い合わせを投げかけ、その問い合わせに対して、消費者行動の立場から、ユニークあると同時に説得力のある答えを見つけることをねらいとしています。

マーケティング現象を説明するためには、文献からマーケティングや消費者行動の理論を学ぶことも求められますが、それだけでは十分ではありません。ゼミでは、身近にあるマーケティング現象に興味を持ち、マーケティング現象を理論に基づいて説明しようと試みること、そして、理論に基づいて現象を説明しようという試みの中で生まれてきた仮説を、データを収集・分析することによって検証することを目指します。

理論を学ぶこと、データ収集と分析のスキルを身に付けることも大切ですが、現象を自分なりに説明しよう、自らが導き出した仮説を検証しようとする姿勢が何より大切だと考えます。主体性を持った学生諸君の応募を待っています。

佐藤 成紀 ゼミナール

演習のテーマ

企業情報を活用した総合的リサーチ

演習の内容

当ゼミナールでは、3年次の春学期にまず、ビジネス界で求められている英文決算書を理解する力を養うため、英文の教材を用いて基本的な知識を習得します。演習のテーマである、「企業情報を活用した総合的リサーチ」を行う場合には、世界中の企業情報にアクセスすることになりますから、そのための第一歩となります。それに続いて、個人のプレゼンテーションを行い、各自の関心のあるテーマでの発表が、とても楽しく、やりがいのあるものであることを体感してもらいます。

3年次後半からは、個人のプレゼンテーションを本格的に開始することになります。報告内容については、企業経営やマーケティング的な情報、そして利益動向などの会計データといった、企業に関する情報を自由に組み合わせて、総合的なリサーチを行って下さい。もちろん、その場合のテーマ選びは試行錯誤があってよいので、報告テーマは各自の関心に従って、隨時、変更して構いません。3年次は、卒論へ向けてのテーマ探しの時期と位置付けています。

4年次では、だんだんと各自のテーマを絞っていってもらい、卒論の執筆に向けたプレゼンテーションをしていきます。ゼミ生相互のディスカッションを通じて、報告する一人ひとりが、自身では気づかなかつたアプローチ方法や、深掘りすることで卒論をより充実させることのできる課題を発見することができます。

こうした2年間のゼミナール活動を通じて、卒論の完成までの一貫したプロセスを経験することで、きっと皆さんのが今後に大いに役立つ、「自信」をつけてもらえることと思います。

田原 慎介 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織、アントレプレナーシップ、フィールドワーク

演習の内容

本ゼミでは、経営組織とアントレプレナーシップに関する理論や考え方を軸に、中小企業、大企業、ベンチャー企業、NPO（病院、高齢者介護施設、NPO 法人など）、ファミリー企業が抱える経営学的に重要な課題をテーマとして扱います。具体的に、新規事業の創造やイノベーションの創出・普及、時代の転換点における組織変革やリーダー育成などの組織開発、危機的状況や逆境を乗り越えるアントレプレナーシップなど、最新のトピックが対象となります。本ゼミが大切にしていることは、企業経営の現場で生じている問題を発見し、多角的な観点から問題の本質を分析することで最適な解決策を導くことです。そのため、本ゼミでは、理論的な知識の習得だけではなく、物事を多角的に捉え深く体系的に考える思考力を養うこと、実際に現場を訪れ現場で何が起こっているのか自ら行動し体感すること、実務家の声に真摯に耳を傾けリアリティを実感することを重視します。

2年間にわたる演習は、次の2つのステップから構成され、いずれも学生の自主性を大切にしながら進めています。3年次の演習は、経営組織とアントレプレナーシップに関する理論的な基礎力、資料の収集やフィールドワークといった研究の基礎力、そして基本的な分析と思考力の習得を目的とします。これらは、グループワークを中心に習得していきます。学生は3-4人のグループに分かれ、本の輪読、資料の収集、フィールドワークを行い、グループごとに研究の成果を発表します。発表後は、参加者全員でより良い発表にするためにはどうすればよいか意見交換し、各自の能力向上につなげていきます。フィールドワークは、企業の現地見学と実務家へのインタビューを中心に、状況に応じてアンケート調査も実施します。4年次の演習は、3年次の学習を応用して、自ら興味関心のあるテーマを選び、卒業論文の執筆にチャレンジすることを目的とします。論文執筆は大変な作業ではなく、視野を広げ、能力的にも精神的にもさらに成長する機会であると考え、演習の時間は学生同士で助け合えるように、グループワークを取り入れていきたいと考えています。

本ゼミは、真面目さと遊び心の両方を大切にしたいと思います。学生の要望次第にはなりますが、フィールドワークとセットにしたゼミ合宿や実務家との交流、他大学ゼミとの交流の機会を積極的につくっていきたいと思います。意欲が高く、主体的に行動してみたいという学生にゼミへ参加していただけるとうれしいです。

西村 三保子 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計、企業分析

演習の内容

企業会計は、企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。経営管理のために主に企業内部のステークホルダーを情報利用者とする管理会計と、利害調整のために主に企業外部のステークホルダーを情報利用者とする財務会計に大別されます。

管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計や企業分析の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力し合いましょう。

3年次春学期には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回レジュメを作成し報告します。秋学期には、12月のインゼミ（他大学との合同報告会）での報告に向け、グループに分かれて調査・研究を進めます。

4年次は、春秋通して卒業論文の執筆に努め、1月の卒論提出を目指します。

また、9月に3・4年生合同の夏合宿を予定しています。

ゼミ活動を通じて、皆さんのが学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができる大切な仲間と出会えるよう願っています。ゼミがそのような素晴らしい場となりますように…。

浜口 幸弘 ゼミナール

演習のテーマ

企業戦略と人工知能 AI

演習の内容

当演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業戦略（主に、マーケティング戦略）に人工知能（AI）を利用する方法について、考察してゆきます。すなわち、利用者側の立場から人工知能の仕組みを基礎から理解し、さらに行動心理学の学習を踏まえたうえで、人工知能を用いた企業戦略（主に、マーケティング戦略）の実際と可能性を扱うことになります。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、隨時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。後半では、AI の基礎的な本を読み、その基本的仕組みを理解したうえで、行動心理学の視点から AI の思考を分析し、最終的に、マーケティング分野への AI の利用を考察します。続く 4 年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、状況が十分よければ、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 人工知能と人間の思考の違いについて興味を持っている学生
2. 学生時代に AI の知識を身につけたい学生

教科書は『経営戦略入門』（日本経済新聞社）

人工知能および行動心理学に関する本については、適宜選択。

三富 悠紀 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティングデータの分析

演習の内容

【ゼミの目的】

- ・企業の持つ POS データ(レジデータ)、アクセスログデータ(EC サイトの利用履歴など)、アンケートデータといったマーケティングデータの統計分析を学ぶこと
- ・マーケティング・消費者行動の分野で自分なりの仮説を設定をして、仮説検証の仕方と結果をしっかりとまとめる能力を獲得すること。
- ・グループ研究を通じて、コミュニケーション能力を養うこと。

【ゼミの流れ】

3 年生前期：データ分析手法の習得 & グループ研究(アンケート調査票の作成)

3 年生後期：グループ研究（データ解析コンペティションへの参加）

4 年生通期：卒業論文の作成

* データ解析コンペティションとは、企業から提供いただいた POS データやアクセスログデータ、アンケートデータといったマーケティングデータを分析する大会です。年によって扱うデータは異なりますが、ゴルフ用品を扱う EC サイトのデータや、スーパーマーケットの POS データ、美容院の施術・来店履歴データなどが過去には提供されていました。20 年以上も開催されている由緒ある大会です。詳細を知りたい方は下記アドレスを参照のこと

<https://jasmac-j.jimdofree.com/>

【その他】

マーケティング・消費者行動に関するデータを分析してみたいと思う学生は是非参加を希望してください。統計に関するプログラミングについては、3 年生前期に一からゼミ生全員で学んでいきますので、苦手でもやってみたい人は歓迎します。

吉田 真 ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の関係の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、EUの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとJリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Bゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

林 麗桂（リン レイケイ） ゼミナール

演習のテーマ

組織行動論

演習の内容

本ゼミでは、組織や集団で活動する人間の行動に対して、「感情」「性格」などに基づく循環論的な視点からではなく、行動そのものがもたらす結果や環境の影響といった客観的な視点から分析する原理を学びます。また学んだ理論を皆さんのが所属している組織や集団における他者との相互理解や円滑なコミュニケーションに応用することで、学びに対する理解を深め、より豊かな社会生活の実現が期待されます。

<実施方法>

3年次では、前期に組織行動論の専門書に基づいた輪読（インプット）と、グループディスカッションやプレゼンテーション（アウトプット）を行います。後期は、前期で学んだ理論・スキルを活かしながら、各自が関心を持つトピックを取り上げ、グループワークを企画・実施してもらいます。さらに企画・実施したワークの成果を後輩に向けて発表することを想定しています。

4年次では、卒業論文の執筆を中心に演習を行います。各自の選択テーマや問題意識に沿って、「学術論文の検索」「文献レビュー」「調査方法の検討」「調査の実施」「データ分析」「まとめ」といった一連のプロセスをメンバー間で切磋琢磨しあいながら進めていきます。また3年生と4年生が合同で卒論の中間発表および最終発表を実施する予定もあります。

<教員からの要望>

- ・LINゼミの1期生として、教員とともにゼミと一緒に作っていきたい方々からの応募を期待しています。
- ・参加人数にもよりますが、ゼミでは、学生の皆さんのが主役でグループワークを進めていく形としたいと考えています。ゼミを通して、メンバー間で切磋琢磨しながら議論を楽しみ、学びを深め、仲間意識を高めてもらいたいと思います。
- ・無断欠席・遅刻は厳しい姿勢で臨みます。

<教員の自己紹介>

2026年4月より着任いたします。中国上海にある日系企業で数年間働いて、2016年に来日しました。大学教員としての経歴（2022年から）はまだ長くはありませんが、明治学院大学のこと、日本のこと、いろいろと教えて下さい。

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

- ・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか）、貿易が行われたときの経済的影響、貿易政策
- ・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
- ・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近は働き方とグローバル化、サービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

李 惠源（イ ヘウォン） ゼミナール

演習のテーマ

韓国の社会と文化

演習の内容

本ゼミナールでは、韓国の歴史・政治・経済・社会・文化や日本との交流などについて学びながら、日本にとって「重要な隣国」である韓国への理解を深めていくことを目標とします。本ゼミナールでは、以下のテーマを中心に取り上げる予定にしていますが、テーマは履修者との話し合いを通して変更となる可能性もあります。

- 朝鮮半島の歴史
- 日本と朝鮮半島の交流史
- 韓国の伝統的な冠婚葬祭
- 韓国の伝統的な芸術・建築・遊びなど
- 朝鮮半島における地域別の食文化
- 韓国における日本ブームの歴史
- 韓流ブームの歴史
- 現代韓国の経済発展
- 激変する現代韓国の中
- ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガンの作品探索
- 在日コリアンの歴史と現状
- 日本に進出した韓国企業に関する調査 など

各履修者には、担当したテーマについて関連文献を読み、視聴覚資料を収集した上でレポートを作成し、プレゼンテーションを行なってもらいます。また各学期 1 回、フィールドワークも実施します。

フィールドワーク：

春学期：東京新大久保のコリアンタウン

秋学期：東京にある韓国企業訪問

ゼミ期間：当該ゼミは B ゼミであり、2026 年度の一年間となります。

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Finding Leadership in Literature

演習の内容

In this seminar, our case studies come from novels and plays: we examine the concept of Leadership through the experiences of characters in works of fiction. What characteristics make or break a Leader? Can we predict whether a person will be a successful leader or not based on those characteristics?

During the first year, we will read and discuss works of fiction to help us consider what the characteristics of a good leader might be, as well as why some leaders succeed and some fail. We will also read non-fiction texts for support. Students are expected to ***read extensively in English*** to prepare for class. During class, students are expected to ***participate actively and enthusiastically in English***. Students gradually assume responsibility for leading class discussion. Students are encouraged to consider questions that emerge from discussion as possible research topics. As students are expected to write short summary and response papers, there is also instruction in writing.

In the second year of the seminar, students will research and write a graduation thesis on a relevant topic of their choice. Students will continue to read outside of class. Classwork includes scaffolded instruction in thesis writing and the presentation of oral research reports. Students will be encouraged to provide and make use of peer feedback.

With a better understanding of the concept of Leadership, it is hoped that students will be better equipped to choose good mentors and become good leaders themselves.

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の1つです。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどのビジネスやM&Aに投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特徴やリスク管理、投資戦略について考えます。

学生時代にもっと深く学んでおけばよかったことに関する最近の民間企業による意識調査では、トップの語学に続くのが金融となっています。理由は色々あるでしょうが、ファイナンスの知識や分析手法は、経済の不確実性が増している中で個人の資産管理や投資判断に欠かせない要素と考える人や、日々の生活で金融に関する判断や選択を行う場面が増えており、ローンやクレジットカード、投資、年金、保険など、さまざまな金融商品や制度に関する知識が求められていると感じる人、将来のキャリアに対して有利に働くと感じる人が多いからであると思われます。

3年次はグループワークを中心に、例えば、財務諸表ベースの業界当てクイズや積立NISAの制度を考慮したポートフォリオ・コンテスト、関心のある題材でグループ研究などをおこない、基本的なファイナンスに関連する考え方や知識を高めていきます。また、経済・経営データやアンケートデータ、その他の資料などから分析をおこなうExcelなどを用いたグループワークもおこないます。4年次には引き続きグループワークをおこないますが、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。

その他には、先輩ゼミ生と合同ゼミや夏のゼミ合宿等があります。なお、演習の無断欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。上記のような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。ゼミ活動に対する意欲がある学生であれば、ファイナンスの前提知識があまり無くても歓迎します。ゼミ説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等も参考にして下さい。

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展に関する実証研究

演習の内容

3 年次のゼミでは、19 世紀末以降、現代までの日本の経済発展をマクロ的な視点から理解することを目標とする。テキストとして、南亮進・牧野文夫『日本の経済発展』(第3版) (東洋経済新報社、) を使用する。テキストを毎回 1 章 ずつ、あらかじめ割り当てられた 学生がパワーポイントを使用して説明し、それ に基づいて全員で議論する。並行して、卒業論文の準備として各自が設定したテーマに関する個人研究を行う。個人研究については、ゼミで中間発表を行うとともに、年度末にゼミ論文として提出する。

4 年次のゼミでは同じ期間の日本の経済発展を、よりミクロ的に産業・企業に焦点を当てて理解する。3 年次と同様にテキストの輪読を行うとともに、各学生が卒業論文準備のための発表を行い、年度末に卒業論文を提出する。2025 年度の 4 年次のゼミではテキストとして伊丹敬之『日本の自動車産業』(NTT 出版)、和田一夫『ものづくりの寓話：フォードからトヨタまで』(名古屋大学出版会) を使用している。

必要に応じて 3 年生・4 年生の合同ゼミ、東京大学経済学部資料館見学、三菱史料館見学等を行う。

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問い合わせに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バーカイ化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え方・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。

3年次には、実在する企業のビジネスモデルを「ビジネスモデルキャンバス」という手法を用いて分析します。例えば、皆さんがよく知っているメルカリやPayPayといったサービスのビジネスモデルはどのような点が優れているのか？といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。

その後、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か？どうしたらその企業の収益を高めることができるかといった点を議論します。例えば昨年度は、サンリオが抱える経営課題は何か？若者に食べログを使ってもらうためにはどうしたらいいのか？といった経営課題を学生自身が発見したうえで、3年生の集大成として、3、4人の実務家達を招き、学生自身が発見した問題に対する解決策の提案を実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）しました。優秀発表グループは、学部全体のゼミ報告会で、大勢の企業の方々の前での発表も行いました。

4年次には、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年次に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、既存理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す単一事例研究の手法を中心に進めます。現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれません、それほど心配する必要はありません。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

最後に、木川ゼミでは、ゼミでの活動を通じて、取組み内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データを使った経済・経営の分析

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた分析が重要視されています。本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を駆使し、卒業論文を執筆することを目指します。

(演習の進め方)

- ・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R などのソフトウェアの使い方を学ぶ時間を設けます。
- ・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた研究であれば、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(研究テーマの例)

- ・企業の ESG 投資の決定要因の分析、野球などのスポーツについての統計的分析、各国の経済成長の要因の解明、航空会社の財務状況とその決定要因 など

(受講にあたっての注意)

- ・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。
- ・本演習では、データ分析というテーマを設定している都合上、数学の知識や PC スキルが必要になることがあります。ただし、あくまでも数学や PC を勉強するゼミではなく、どのようにそれらを使うのかに重きを置きます。
- ・データ分析入門レベルの知識があれば、ゼミに参加する際に大いに役立つと思いますので、シラバスを確認してください。データ分析入門の学習内容の復習も、ゼミでの輪読と並行して行いますので、未履修の方も歓迎します。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

貿易と起業

演習の内容

国際的な貿易取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用する貿易ビジネス・起業・経営のスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベイトを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学び議論します。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。学生自らが商材を決め、貿易相手国・仕入先を選定し、販売市場を定め、マーケティング戦略を考え、更には資金繰りをもマネージして起業初年度の決算書まで仕上げてみせます。自らが貿易商社を起業することにより貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより貿易関連業務、部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然に身に付けられます。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表したうえで、全員で討議します。例年約10社の一流企業幹部を招いてビジネスプラン発表会を開催し好評を博しており、多くの採用にも繋がっています。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンの力をつけます。必ずや皆さんは「Bゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進み世界を舞台に活躍していることからも、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第10期生よ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明： 明治学院大学卒業、ロンドン在住17年、起業歴25年、現在、レアメタル商社社長として、日本の国益に資する希少資源の輸入調達に邁進中！】

マイヤーオーレ ヘンドリック ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds. Through two years of seminar activities, students will master crucial principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. Additionally, this seminar aims to prepare students for their future careers by fostering genuine confidence and professionalism in public speaking.

During the third year, 2026, students will learn about the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, to prepare for writing their thesis in English in their final year of 2027, students will write multiple-draft essays supported by logical arguments and information from texts.

Moving into the fourth year, 2027, students will explore the theoretical aspects of public speaking in depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological aspects. They will learn to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers and will select and examine a few speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from their analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English during each session.

山田 純平 ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得することになります。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書を分析し、その分析をもとに、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。決算書の分析だけではなく、将来を予測して、企業価値の算定まで行う予定です。まずは、企業分析や企業価値評価について説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができる目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。またゼミの人数が少ない場合には、相談のうえ報告会には参加しないことにします。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。1年間かけて論文を執筆することにより、論理的な思考力が鍛えられるので、卒業論文を執筆することを望みます。

ここまででは例年の演習の内容を書きましたが、参加者のニーズに合うように、演習のなかで相談したうえで、運営していくたいと考えています。

発行日：2025年9月1日
編集責任者：藤田 晶子
編集：明治学院大学 経済学部
〒108-8636
東京都港区白金台1-2-37